

鎌倉市立稲村ヶ崎小学校

研究テーマ：「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり」

～きこう はなそう つなげよう～

1 実践の目的

御成中学校、御成小学校と本校の3校が、共通課題として「きく、考える、表現する」を大切に授業づくりに取り組んでいる。義務教育9年間を通して、良さを認め合い、他者の意見をよく聞くことで、自らの考えを再構成し、他者に自らの考えを伝えていくことを目指している。繰り返し学び、深く考え、判断し、自ら進んで行動することのできる児童・生徒の育成に努めていく。

2 実践の内容

(1) 小中連携の強化（3校合同研修）

今年度も、御成中学校、御成小学校、稲村ヶ崎小学校の3校の教職員が集まり、山梨大学大学院総合研究部教育学域の茅野政徳准教授の講演を聴く機会を得た。

小学校・中学校とも当然「主体性」の高い児童は多くみられる。その中で、授業者がそれをどのように見取り、評価していくのかということ共有し、また、他県市町の現状も知る機会を得たことで、同じ中学校ブロックの3校でめざす子どもの姿をすり合わせる機会となった。

今後も継続課題として「主体性」の見取り方を検討している本校の、指針となる話を伺うことができた。

(2) 授業研究

今年度も、山梨大学大学院総合研究部教育学域の茅野政徳准教授から指導・助言を頂いた。師範授業を参観し、また、授業の在

り方や主体的な学びの定義、学年に担当されている指導事項などの講義を伺い、研究に対する共通理解をし、その理論に基づいた授業研究の実践を目指した。昨年度までの授業実践の方法を継続するかたちで進めている。

まず、正しい手立とは与えられているか等を確認するため、指導案検討は2段階ステップを踏んだ。

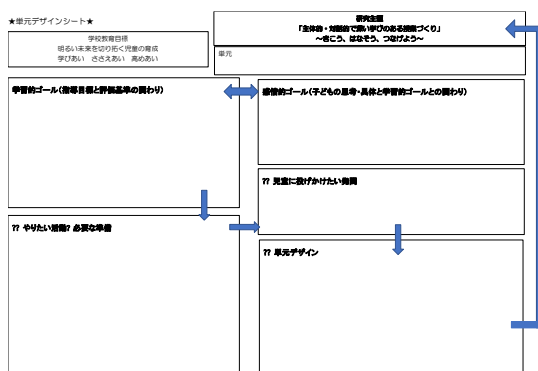
- ① 低学年ブロック、高学年ブロックで検討
- ② 全体で検討

研究会を繰り返し行う中で、教師全体で話し合った内容が反映された指導案にしていった。授業の中で大切にしている「つながり」がわかるようにし、深い学びとなる授業構成を考えていった。

2回の指導、助言では、「ワークシート活用」「発問」などを、授業で継続・精選して行い、適切な場面で取り入れることで、児童の主体的・対話的で深い学びにつながることを学んでいる。とくに「発問」を探求する過程で、知識や経験がつながっていくので、この発問がとても重要であるということ共有した。

③ 単元構想図

昨年度までの授業研究の大枠の変更はしなかったのであるが、単元をとおして、どういう子どもに育てたいかを考える手立てとして「単元構想図」を作成した。まだ始めたばかりの取り組みであり、精選していく必要がある。



3 実践の成果

(1) 学校の進むべき方向性

3校共通の大切にしたい「きく、考える、表現する」ことから、児童が主体となる「ききたい、考えたい、表現したい」と思えるような研究を行ってきた。6学年という幅のある成長過程のなかで、「きくこと・はなすこと・考えをつなげること」、それぞれの成長段階に合わせた授業へと改善が進んだ。

児童は、学ぶことに興味や関心を持ち、粘り強く取り組み、また、自己の学習活動を振り返って次につなげるような学びになったことを、一部の児童のつぶやきや、振り返りから読み取れた。一部の児童から全体の児童へ学びが深化していくことをさらに目指していく。

子どもたちが、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」、子どもたちが学んだ一つ一つの知識がつながり、「わかった」「おもしろい」と思える授業の研究を行ってきた。周りの人たちと共に考える場面を設定し、新しい発見や豊かな発想が生まれる「しかけ」として、発問やワークシートなどの研究が進んだ。

また、不登校児童が学校に登校しやすい環境作りにも取り組んだ。教室に入れない児童には、個別対応で指導を行い、学校の中に居場所作りができたこと、学習を継続的に進められたことなど、稲村ヶ崎小学校全体の、それぞれの場で「きく・はなす・つな

げる」活動ができた。

次年度は、単元構想図の作成に力を入れ、単元のまとまりの中で指導内容のつながりを考えながら「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの学びを設定し、単元を組み立てていけたらと考えている。

(2) 児童の変容

研究を続けていく中で、児童の「最後まできく」「順序立てて話をする」という意識が定着してきた。そして、考えをつなげたり深めたりできたと感じているつぶやきや振り返りが見られるようになってきた。

口に出して「伝えたい」という児童が増え始めているが、どの児童もワークシートやノートへの振り返りが十分できている。言葉の選び方や表現方法が十分とは言えない児童もいるのが現状ではあるが、「自分の考えを伝えたい」という意欲は、全ての児童のノートから、同じように感じるようになってきた。



4 今後の展開

本校の研究テーマは、昨年度までの研究テーマにつながりを持たせて、さらに児童の意欲・学力の向上を目指して取り組んでいる。今年度の研究を経て、教師が学びのつながりを意識したことで、児童にもそれが伝わり、学習がより継続的・発展的なものになってきている。

今後も授業改善を継続し、子どもたち自身が自分の学びを意識し、より主体的な「きく・はなす・つなげる」が見られる授業となるように研究していきたい。